

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
11

2010 文月・葉月

総代が語る教区活動
縦割り社会に
横のつながりを



・ 総代が語る教区活動 ・

縦割り社会に 横のつながりを

各地区担当総代は、金剛禪布教活動を円滑に進めるため、本山と道院長、門信徒とのパイプ役を担っており、全国を9地区に分け、9人が任命されている。道院同士が横につながり、互いに補い合い、地方における活動の充実を図る教区制は、金剛禪の教えを具現化したものといえる。今号では、総代が見てきたこれまでの教区活動を振り返り、今後の意気込みを語っていただいた。

担当／山下真由美



今、この時代だからこそ



北海道地区
総代 竹田 則幸

北海道は面積が広く、また地方にいくほど道院間の距離が遠いため、教区活動は移動に時間を要します。しかし、体力的にも金銭的にも負担を強いられる行動ゆえに、毎回の取り組みは真剣であり、逆に連帯感、絆も強まっていると感じています。地理的ハンディがある中で、より一層道院間の連携を強化し教区活動を活性化させるにはいかにすべきか、北海道教区区分制なども視野に入れて取り組んでいきたいと思っています。

社会環境が目まぐるしく変化し、人間関係が希薄となり、凶悪事件があつたを絶たない現代社会の状況は、開祖が金剛禪教団を創始されたころの時代背景と差異がないと思います。今こそ社会に向けて行動すべきとき、真に社会から信頼され、必要とされる存在となるために、これまで学び得たものをいかに実社会に生かせるかその行動力が問われると思います。そのためには教区活動の活性化が不可欠です。今一度原点に立ち返り、学び合い、援け合い、分かち合える金剛禪らしい互助関係を強固にし、同志とともに金剛禪布教者

としての自覚と更なる研鑽を深め合うことが大切であると考えます。金剛禪は机上の空論ではなく、平和で豊かな理想社会実現という大目的達成のための行動哲学であり、実践論なのです。

まず指導者の質の向上



東北地区
総代 海鋒 雅之

東北地区は、地理的に集まることが大変な所ではありますが、県道院長をはじめ道院長の多くが、仙台中央道院の故・太田達雄先生を中心に東北武専に集まり、共に学び酒を酌み交わした間柄が多く、先輩から受け継がれたことが今も若手に脈々と生きているような地区です。この4月に東北地区の連合体ができりましたが、残念ながらまだ未成熟な東北教区としての連合体だけでは無理があり、結局、組織として歴史のある各県連盟の力を借りるところとなり、今後の課題です。

2011年の組織機構改革スタートが県連体制から教区体制への変換のチャンスと思っています。それには、表面だけの宗教法人ではなく、堂々と金剛禪を前面に出して語れる指導者の育成が重要です。指導者育成には、正しい「すりこみ」作業が必要で、それを積極展開するのが教区です。勉強会な

どのカリキュラムをつくり、指導者の質の向上を図らなければならないと考えます。身体は汗から脳の汗へ、まずは門信徒修行法の内修の充実を図りたい。本山の指導力および、『あ・うん』の誌面を使ったすべての拳士が学ぶきっかけづくりに期待するとともに、私自身、総代としての学びを深め、自己研鑽に努める所存です。

金剛禪の主行Ⅱ 少林寺拳法



関東地区
総代 矢島 隆禪

関東の各都県教区(7地区)を道院活動の確認と説明のために回った際、「金剛禪の主行Ⅱ 少林寺拳法を丸ごと、左右、繰り返し、続けてやる」という法話をさせていただきました。21世紀は心の時代といわれますが、私はその心は常に金剛禪の説く、ダーマの分霊である心・精神にあると思っています。本気で郷土・国・世界の人々のために行動していける自己を目指し、そして他の人とともに向上する心です。そのために、少林寺拳法Ⅱ 金剛禪の行法は「丸ごと、左右繰り返し、続けてやる」ことが肝要です。

各都県教区単位で儀式行事や合同練習会など教区活動に取り組んでいます。中でも、千葉県教区からは毎年、

新春法会教区研修会に呼んでいただいており、今年は「金剛禪の信仰の中心ダーマと、ダーマの分霊である我について」というテーマで法話をさせていただきました。また小教区によって、昇級考試、儀式行事以外に、僧階論文対応の研修会を実施しているところもあります。今後の希望として、年に1～2回の関東地区都県教区長会開催や小教区合同法話会と話し合いなど、定期的な情報交換の場をつくり、より金剛禪運動の活性化と発展に寄与していきたいと願っています。

よい人間関係を築く



北信越地区
総代 見崎 俊次

私が活動する小教区では、近隣三道院がすべてのことに対して協力体制をとって助け合っています。拳士は所属する道院の修練日を基本としつつ、三道院どこに行っても修練ができ、指導者も三道院どこでも指導ができる体制をとっています。これにより、拳士や保護者のさまざまな都合や事情に対応でき、父母の会や一般の拳士会も三道院と一緒に、道院をより立てています。このように教区、特に小教区は近隣同士の助け合いです。楽しいときも苦しいときも近隣同士がうまくつ

きあうこと、それも堅苦しくではなく「気軽さ」が大事です。本当に困ったときには身を挺して助けてあげる、よい人間関係を築くために金剛禪があり、教区があると考えます。

今こそやらなければならないのが、金剛禪の根幹となる「教えの中身」の学習システム構築だと思っています。なぜ開祖は金剛禪を必要としたのか、なぜ我々は金剛禪を選んでいるのか。「教えの中身」と必要性を理解できたと、金剛禪を守る組織機構改革が最も理解できるときだと思っています。地域に對して、その学習システム構築の手助けの一役を地区担当総代として担っていただけたらと考えています。

形の次は、中身の充実を



東海地区
総代 柳川 瀨一美

東海地区は150以上の道院を有する大規模県教区と約30道院の中規模県教区とを有する地区です。このような現状の中で、各県教区は規模に応じた独自の活動を展開しています。

最大規模の愛知県教区では、浦田武尚代表をお招きして、県教区役員・小教区長による新春法会を開催し、代表を囲んだ意見交換会も非常に活発でした。最小規模の岐阜県では、

2008年より毎年、道院長・幹部による新春法会を開催し、教区の結束を固めています。静岡県教区や三重県教区でも儀式行事や教区活動など、積極的に取り組んでいます。

これからも、県教区長の皆様とコミュニケーションを生かし、見聞を広めていきたいと思っています。今まで支部(財団法人)の活動を通じて少林寺拳法を広めてきたことは事実です。しかし、今後は金剛禪の活動を通じ、道院(宗教法人)としていかに広めていくかが課題と考えます。教区という形ができた今、次は中身の充実です。そのためには道院長研修会および指導者講習会を通じて、技術の根本(本質)が金剛禪の教えであり、共通して布教・普及していくことが重要と考えています。

地域社会の信頼を得る



関西地区
総代 西尾 武

関西地区は大阪府をはじめとして小教区数が非常に多い地区です。そのために、各指示事項や統一すべき事柄などが正確に伝わりにくいという欠点がある一方、平城遷都1300年祭への参加など団結力はピカイチです。

教区長会議では、各府県における小教区活動をより効果的・効率的に実施

するために、①道院における具体的な儀式の実施方法や門信徒育成のための指導カリキュラムの作成、②合同行事の開催、③道院長の資質向上のための勉強会の開催などの事業を実施することを確認しました。

課題は大きく二つあります。宗教法人のあり方も含めコンプライアンスが基本であり、関西府県各教区における道院の形態やあり方ならびに信徒香資などについて、小教区を通して徹底した指導を展開すること。そして、地域社会に信頼される団体としての役割を果たすべく各府県単位での事業・市町村との連携による青少年育成事業・地域活性化事業などを実施することです。

小教区間での温度差は必ず表れるので小教区同士の連携は特に必要です。互いの小教区の長所と短所を噛み合わせて事業を展開すれば更に大きな効果を生むと考えています。

道院と教区は唇歯の関係



中国地区
総代 鈴木 義勝

中国五県で編成されている中国地区は、小規模ながらも活発に活動が続いています。総代として各地を回った際、コンプライアンスの観点から教団としての4要素、①教義を広める、②

儀式行事を行う、③門信徒の教化育成を行う、④礼拝施設を整える、を道院で必ず行ってもらうこと、次に道院を5つの形態に分類した際の4、5形態から1〜3形態へ移行してもらいよう要請をして参りました。各県教区とも個性派揃いで、まとめ役としての県教区長のご苦勞は大変だと思いますが、本山役員に講師を依頼しての勉強会、小教区においても僧籍編入、僧階補任を鑑みての勉強会など、金剛禪布教者としての研究、人格向上に余念がないところがすばらしいと思います。

申し上げるまでもなく、布教活動の末端部分である道院で火をつけ、小教区でその火が大きくなり、県教区で燃え広がるがごとく、唇歯の関係でなくてはならないと思います。それでこそ、本来の金剛禪運動といえるのではないのでしょうか。とりわけ今年度は、2011年に完全実施となる組織機構改革に向けて、連絡を密にし、各地を訪れ、理解を求めながら総代としての任務を全うしていきたいと思っています。

必要とされる団体に



四国地区
総代 小野 芳洪

四国地区での活動は、組織機構改革の動きの中での教区活動の重要性を説

き、組織が置かれている現状と、今後どのように取り組むべきかを認識し、どのように行動するかが教区活動の背骨になることを訴えてきました。

そもそも現在の組織機構改革は、1979年、開祖が招集した緊急道院長会議に始まっています。開祖は道院における金剛禪の布教がなおざりになっていることを憂慮され、道院長に厳しく道院本来のあり方を問うとともに、公益法人としての自己点検を訴えています。教区制の形は整ってきてはいますが、中身が整ってきている地区はまだ少なく、これからが正念場です。

教区活動の原点は、道院での布教活動です。その中で、道院長の資質を高め門信徒の人格形成の向上を目指し、社会に貢献できる人材を輩出することを目指しています。道院は教団の礎であり、小教区活動は教団の布教活動の源です。横のつながりを生かし、行動を通じて地域社会に貢献し、必要とされる団体となるのが教区の本来のあり方です。小教区の勉強会は、そのために必要な智慧とノウハウを磨くためのもので、賢くて、ハートがあって、パッション(情熱)があって、そして勇氣を持って果敢に行動するため勉強するのです。お互いに影響し合い、楽しみながら切磋琢磨する、そんな小教区の集まりであってほしいと思います。私自身もチャレンジしたいことがあります。少林拳法の教えは、

今の時代に最もふさわしい教えであることを信じて邁進しましょう！

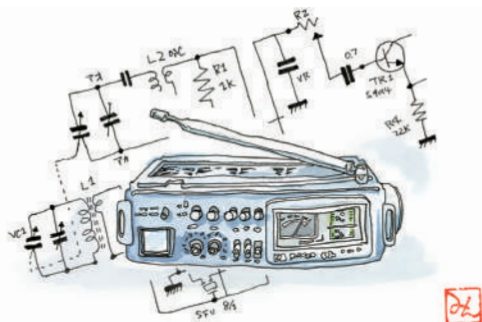
教区の県大会を目指して



九州沖縄地区
総代 久保田 利幸

総代として、2009年2〜4月にかけて、グラントデザインに基づき、道院活動の確認と実態調査および信徒香資の説明のため、各県教区を回りました。また、九州地区には、九州連絡協議会という組織があり、機会があるごとに参加して教区の話を見せていただいています。しかし、教区によって温度差があることを感じています。また、道院活動の説明会において、信徒香資の意味をまったく取り違えている道院があったことを知り、これには大変驚きました。毎年、県教区を回り、せめて小教区長クラスとは密に話ができたかと考えています。

今後は、金剛禪総本山少林寺がリーダシップをとり、開祖が灯した金剛禪運動(幸福運動)の灯し火を広げていかななくてはならないと思います。そのためには教区活動の充実が大前提になります。福岡県教区では教区の県大会を目指しています。よいモデルとなる大会が開催できるように、応援していきたいと思っています。



改革

昭和初期、誕生まもないラジオで「法句経」を講義して大きな反響を得た友松圓諦^{ともまつ げんたい}。「漢文の意味のわからないお経ではなく、わかるお経を伝えたい。わかる仏教、生活に生かせる仏教を」と問題を提起し、仏教ブームを巻き起こした友松。開祖も『少林寺拳法教範』を編纂^{へんさん}するにあたり、友松著の『法句経講義』と『これからの寺院』の2冊を参考図書としてあげている。

青年期にどうしても寺を継ぐのが嫌で寺を出ようとしたとき、「坊主が嫌なら、嫌でない坊主になったらどうか。お寺が嫌なら、自分の気のすむようなお寺を自分で建てたらどうか」という母からの手紙を読み、嫌でない坊主になる、自分の気のすむ寺をつくることが、友松の原点、生涯の課題となる。そして友松は、わからない漢訳経典^{どくしや}読誦や葬式中心の仏教を批判し、第二次世界大戦後は「僧よ変われ、寺院よ変われ」と、在家仏教運動と寺院革新を指導した。

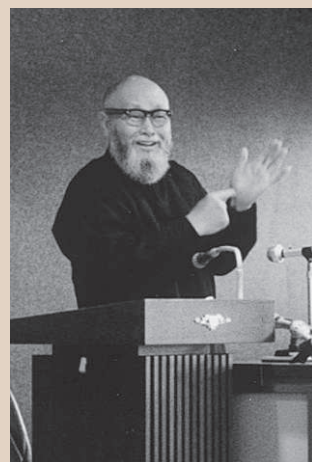
我々、金剛禪教団も組織機構改革を迫られている

が、それは嫌なことをさせられるのではなく、開祖が目指したことを改めて自覚し、本来やらねばならないことをもう一度確實に行うための変革であろう。我々にはまだまだ自分たちの思いどおりの道院をつくる未来、やりたい道院をつくる未来がある。そしてそれは、人間のみに与えられた靈性に気づき、自らの可能性(相依性、潜勢力)を信じ、ダーマを信じ、少しでもよくしていこうと努力を怠らないことにつながる。

変わろうとすれば、必ず変わるというのが金剛禪の教えである。組織改革には機構の改革も必要であるが、最も必要なのは人の意識が変わることである。まずは、行という自分の生活体験を基にした布教ができるよう、仏・法・僧の三宝を心の底から信じているという不動の確信に裏打ちされたわかりやすい法話ができるよう、そして相手の心を打つ、相手を教化^{きやうげ}する法話ができるよう、何よりも、自分の行動で、背中生きざまを見せることができるよう、そこに法を具現できるようにと、自分に言い聞かせている。

開祖語録 ダイジェスト

1975年8月10日
第2次指導者講習会
(2日目)



我々の運動は、単なる宗教運動ではない。何かを信じろという、偶像あるいは得^え体の知れない神様か仏様を信じろでなくてね、自分を見つめ、自分を尊重すると同時に、人間を尊重して、そうして、協力しながら幸せな世の中をつくらうではないかという幸福運動です。

それためには新聞だって、勉強になるんですよ。あつ、こういうていた、どっちが本当だろうか、といった疑問を持ち判断ができるような、基礎知識が欲しい。そして自分の考え、態度を決めなくてはならない。いろんなことを知り、よく考え、どうしたらええかという一つの目標を持たないと、人にもはいえないと思う。

だから、少林寺拳法は単なる武道のように相手をやっつけたり、どっちが強いかというのじゃないんだと、諸君もよそへ行ったら言いよるだろうと思う。そのとき、相手がみんな君の言葉に賛成してくれるとは限らないですね。

いろんな相手がいて、それぞれ

議論で突っ込まれたとき
相手を説得できるためには

開祖忌法要

「志」を確認する

5月9日、金剛禪総本山少林寺本堂において、名誉委員、道院長ならびに法縁関係者約500人が見守る中、30回目となる開祖忌法要が挙行された。

法要は導師献香に始まり、教典唱和、表白文奉読、参列者献香と進んだ。また参列者の献香中には、創始30周年記念全国大会における部内の集いで開祖の講話が場内に流れ、参列者はありし日の開祖に思いを馳せつつ香を献じた。道院長研修会1次に合わせて挙行された今年の法要では、組織機構改革の原点ともいえる開祖の「志」を参列者自身の「志」とし、社会に貢献できる人づくりの道に挺身する決意を固く誓った。(富田雅志)



INFORMATION

おめでとうございます

春の叙勲 瑞宝単光章を受賞

平成22年度春の叙勲において、名誉本山委員でもある、柿沼^{かきぬま}實^{みのる}東戸塚道院道院長が瑞宝単光章を受賞されました。長年に渡り、少林寺拳法を通じて青少年育成に努められてきた功績が認められたものです。なお、柿沼道院長は5月12日に皇居に参内し、天皇陛下に拝謁され、お言葉を頂いたとのことです。



日本スポーツ少年団顕彰指導者を受賞

4月28日、山口県庁において行われた日本スポーツ少年団の顕彰指導者の表彰・伝達式において、宮脇功次^{みやわきこうじ}小野田道院道院長が、全国顕彰を受賞されました。このようは地元誌の宇部日報にも掲載されました。



なお、宮脇道院長は山口県少林寺拳法連盟の元理事長として、2009年11月に、山口県教育功労者表彰を受賞されています。

僧階昇任者

中導師

■2010年4月1日付

齋藤 透(黒石道院)
相谷 直善(尾張小牧道院)
関森 隆治(四日市龍王道院)
岩本 剛(滋賀皇子山道院)
篠井 米藏(京都長岡道院)
酒井 信人(柏原旭ヶ丘道院)
賀内 重善(小野道院)
田中 英将(芦屋道院)
青山 裕昭(神戸山の手道院)
八木 康光(神戸東道院)

高橋 正義(長崎多良見道院)
高山 毅(菊池道院)
横山 春一郎(鹿児島霧島道院)
榎中導師

■2010年4月1日付

千葉 和仁(岩手東水沢道院)
相原 聡(山形中部道院)
尾崎 諭司(茨城牛久道院)
大槻 政之(渡良瀬道院)
菊池 厚(埼玉越谷道院)
柏崎 勝人(埼玉新所沢道院)
竹田 光男(船橋東道院)

廣田 稔(習志野台スポーツ少年団)
安藤 弘明(君津道院)
米山 憲一(八王子松枝道院)
竹中 司(東京飛鳥道院)
藤井 美彰(東京福生道院)
九里 一也(金沢城西道院)
三枝 晶子(遠江西道院)
藍場 庸司(富士南道院)
児玉 靖(参河依佐美道院)
長澤 克彦(刈谷中部道院)
伊藤 作次(名古屋瀬古道院)
光岡 哲也(稲沢北道院)

松田 孝弘(三重桑名道院)
鈴木 拓史(洛南道院)
曾束 正義(洛南道院)
山本 高稔(京都春日道院)
室山 典彦(倉敷郷内道院)
貞永 英二(宇部常盤道院)
矢野 桂治(周南南道院)
坂東 照之(福岡中央道院)
龍甲屋 勉(福岡夜須道院)
平田 雄嗣(北熊本自衛隊)

お布施

▷村上 一	3,000円	▷山上万智子	30,000円
▷大阪北道院 服部 弘	30,000円	▷蔵本 朝子	20,000円
▷東京大塚道院 有志一同	10,000円	▷村岡 和徳	10,000円
▷東京都教区 大澤 隆	10,000円	金剛禪総本山少林寺改修基金	
▷鷺沼道院 松木 長實	10,000円	▷洛東道院 森川 是汪	30,000円
▷奈良中央道院 今城 隆廣	100,000円		

7月の本山行事

3日(土)～4日(日) 道院長研修会(北海道・東北)

16日(金)～18日(日) 道院長資格認定研修会

18日(日) 帰山

25日(日) 帰山

8月の本山行事

29日(日) 帰山



宗務局長 田村 明

vol.11 ダーマを感じる

清風



ダーマを感じる、理解する。それは、命の尊さが理解されること、生きていることへの感謝、そして、そこで初めて感謝や反省ができる。言葉だけではなく心から理解すること。それが信と解だ(信とは疑われない心のこと)。

他人への目、自然への目など素直な気持ちのときと、悩み多きときでは眼の曇り方、澄みかたが違う。「心の目」とよくいうが、「半ばは他人の……」というときは、自分を捨てて相手のことが考えられるかが問われている。相手の気持ちが伝わるるとき、相手も自分も澄んだ心があればこそなのである。

人間は感性が鈍くなっている。逆にいえば、感動する心がある。感性を磨くともいえる。自分の存在を感じるとき、自然の大きな力を実感する。「生きる」「命」は永遠のテーマである。

コンカツ

コンビニと宅配便は、見事なまでに生活に浸透した事業である。便利さの追求が、小売業・流通業を根元から変革したのであろう。

先日、コンビニに寄った。特別な目的など持たず、ふらりと入店、何となくボトル茶を庫より取り出し、レジに並んだ。大型チェーンの店、もちろんレジの向こう側のバイト君は、無機質に正統派マニュアルを忠実に遂行、もちろんこちらもセオリードおり、無機質に対応予定が、そのとき、「事件」勃発！

私の前の客、ごく普通の中年男性、レジ精算中、バイト君に「ハイ、ありがとう。うん、ハイ、ありがとう」と、いちいち笑顔でうなずきながら、ありがとうと発声している。

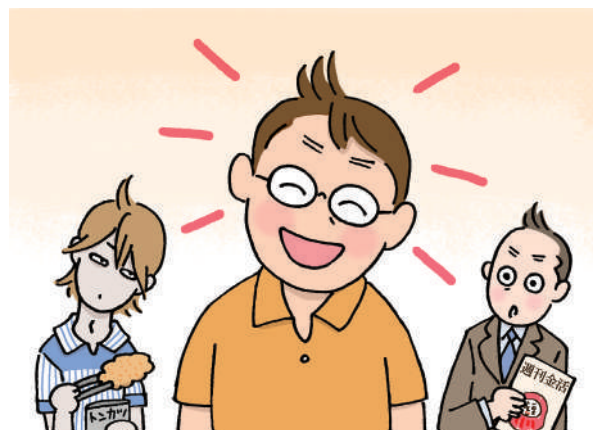
思い違いをしていた我が恥ずかしい。相手が無機質だから……なんて未熟な解釈なり。

こちらから暖かい空気を発生送信しないと、世の中なんて温まらない。

その後、感謝の言葉、連発の日々である。これも婚活？違った金活(金剛禅布教活動)の一環でしょう。

(金沢文庫道院・米田隆英・47)

一期一笑



イラスト/大原由軌子

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。
なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

係長 新延まゆみ

高木啓子



事務局紹介のコーナー

本山見える課

File.11 財務部 道院出納係 (2010.6月現在)

道院出納係では、主に道院口座からの引落の確認、道院運営費の送金、「引落予定通知書」「香資・礼録等受領書並びに道院運営費交付書」「振込依頼・振込依頼明細書」の発行、「少林寺拳法乗車票」の申込受付・発送などの業務を行っております。常に、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)と報告・連絡・相談を徹底し、思いやりと笑顔

の対応を心がけております。

お問い合わせやお申し込みに、柔軟かつ迅速にお応えできるよう努めており、先生方から感謝の言葉を頂けたときは、とても嬉しくやりがいを感じます。ゆうちょ銀行の道院口座、引落・送金・振込に関するご質問などございましたら、どうぞお気軽に道院出納係までご連絡ください。

宗門の行としての少林寺拳法



Byakuren Ken, mikazuki gaeshi
びやくれんけん みかづきがえし
白蓮拳 三日月返

三日月返は、攻者の上段直突^{ちよくづき}を左手内へ引っ掛けるようにして受け、下へ押さえながら右平拳^{ひらけん}で三日月へ上振突^{あげふりづき}を行い、その手を直ちに返し、頸中^{けいちゅう}へ手刀打^{しゅとううち}を返す技法である。特に、攻者の攻撃手を殺し、二撃目を封じること、そして直ちにその手を肘^{ひじ}から引き抜き、頸中に手刀打を返すことなど、正確さに加えて速さと節度に重点を置いた修練を心がけたい。

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 大拳士六段

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！ 名古屋千種道院、中拳士三段。

.....
編集後記▶新年度の本山における道院長研修会が終わろうとしている。残すところ7月3、4日の北海道・東北地区のみとなった。▶来年度の開祖生誕100年を契機とした、少林寺拳法グループの大規模な組織機構改革に関する全国所属長を対象の研修である。▶幸福運動、理想境建設を目的とする金剛禅布教者としての再確認と、同志の獲得、協力を一段と邁進^{まいしん}する充電研修会であった。(あ)

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト
<http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html>

2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、金剛禅布教活動に役立つコンテンツを段階的に充実させていきます。また、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載仕切れなかった記事・写真も掲載されています。

少林寺拳法

検索

発行人：浦田武尚 発行所：金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 <http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：秋吉好美 企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

金剛禅総本山少林寺広報誌『あ・うん』 2010年7月1日発行(奇数月1日発行)通巻第11号 印刷・製本：(株)ブル・ドック

※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

※現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。

(追加1部につき50円を口座引き落とし・送料別途要)TEL.0877-33-1010 e-mail fukyoka@shorinjikempo.or.jp



SHORINJIKEMPO